



観光政策分析資料

八重山圏域・宮古圏域 比較分析

2026年4月作成

八重山圏域・宮古圏域 観光比較分析レポート

石垣市の観光政策検討に向けた基礎分析



比較対象

19項目

居住地・性別・年代・世帯年収・職業など



対象資料

3種類

項目別比較・総括・政策示唆



分析対象

2圏域

八重山圏域・宮古圏域

作成趣旨

八重山圏域と宮古圏域の観光特性の比較を通じて、石垣市の観光政策検討に資する視点を整理した参考資料。
19項目の詳細比較分析により、両圏域の特徴・差異・傾向を明確化し、具体的な政策示唆を導出。



※本資料は八重山圏域データを含む広域比較分析を基に構成

沖縄県「観光統計実態調査報告書」を使用

石垣市（沖縄県）

観光業が地域経済を支える、 八重山諸島の観光拠点

石垣市は日本列島の最西南端にあり、11の有人島からなる八重山諸島の拠点都市です。

■ 観光立市の推進と産業の柱

石垣市観光基本計画において、観光は市の「**基幹産業**」「**主要産業**」と位置づけられています。

市は「**観光立市**」を掲げ、持続可能な発展を目指しています。

観光による経済波及効果 (2015年度推計)

688億4,000万円

本市の経済を支える重要な柱



川平湾

観光の魅力

- 川平湾
- 平久保崎灯台
- 玉取崎展望台

アクセス

南ぬ島石垣空港が玄関口

空港からはバス・タクシー・レンタカーが利用可能。

特産品

石垣牛

八重山そば

黒砂糖

パイン

マンゴー



沖縄県 観光統計実態調査とは

観光客の属性・行動・消費単価を詳細に分析した統計調査

沖縄県公式ソースに基づく

大規模サンプル× 圏域別分析で、観光実態を精緻に把握

サンプル規模（令和6年度）

国内客調査（航空乗客アンケート）

22,704 票

4空港で実施（那覇・石垣・宮古・下地島）

石垣空港

10,212票

宮古空港

5,671票

久米島空港

1,248票

下地島空港

1,532票

各空港で第1回～第4回の複数回調査を実施

第1回実施期間：令和6年5月25日～6月30日

第2回実施期間：令和6年7月1日～9月30日

第3回実施期間：令和6年10月1日～12月31日

第4回実施期間：令和7年1月1日～3月31日

圏域別に把握・比較

圏域別分析体系



属性 旅行内容 消費単価 満足度

圏域ごとの差異や特徴を同一指標で比較可能

調査の目的と活用



日本人観光客の実態把握

来訪者の属性・行動パターンを分析



観光施策の企画・立案・評価

データに基づく政策形成



観光収入推計・需要把握

地域別分析・需要予測

八重山圏域（沖縄県）

宮古圏域と並ぶ、沖縄離島観光のもう一つの主役

3市町

32島

有人島12島

圏域の概要

位置・構成

沖縄県の南西端に位置し、石垣市・竹富町・与那国町で構成。

気候

亜熱帯海洋性気候。

石垣島の年平均気温は約24°C。

拠点性・産業

石垣島が経済・行政・観光・文化の中心。
第3次産業の比重が高く、観光・交流・離島交通の拠点性が高い。

令和6年度観光KPI

入域観光客数

1,406,373人

観光収入（推計）

約1,533億円

※観光収入（推計）は、沖縄県「令和6年度観光統計実態調査報告書」にある八重山圏域の観光客数1,406,373人と圏域外客消費単価109,019円から算出。

島ごとの個性

石垣島

都市機能と海

西表島

原生的自然

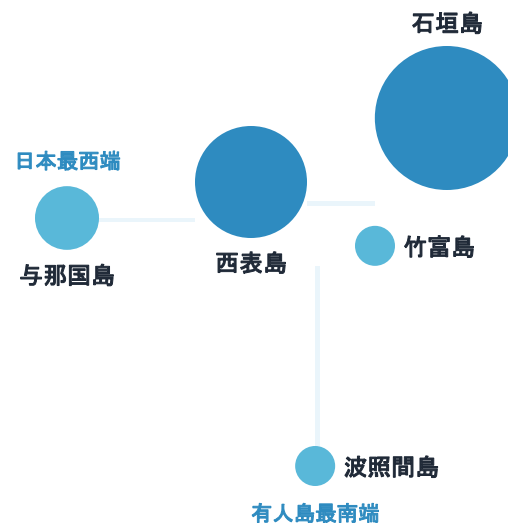
竹富島

赤瓦の集落文化

与那国島

最西端の
景観と文化

有人島の位置と構成



石垣市

1島

竹富町

10島

与那国町

1島

大小32の島々から成り、有人島は12島。石垣島を中心に周辺へ島々が広がる。

基本情報

- 宮古島市・多良間村で構成（1市1村）
- 8つの有人離島（宮古島、池間島、大神島、来間島、伊良部島、下地島、多良間島、水納島）
- 沖縄本島の南西約290km、石垣島の東北東約133km
- 宮古島が総面積の約70%を占める中心島

自然・拠点性

- 平坦な隆起サンゴ礁の地形
- 年平均気温約24.9°Cの亜熱帯海洋性気候
- 宮古島市が圏域人口の大半を占める中心拠点
- 5島が橋でつながる広域回遊性

魅力の例

- 与那覇前浜 = 白砂ビーチ
- 伊良部大橋 = 海上景観ドライブ

令和6年度 観光収入

1,072億9,630万円

入域観光客数・観光収入を四半期ごとに継続把握

令和6年度 入域観光客数

116.7万人

正確値 1,167,412人

空路 994,003人 / 海路 173,409人

八重山圏域との比較

沖縄県観光統計実態調査で、宮古圏域は海的美しさ・景観・宿泊施設で高評価

● 宮古圏域 ● 八重山圏域



海と滞在満足度で八重山圏域と競い合う観光エリア

石垣市の観光政策を検討する際、同じ沖縄離島型観光地でありながら旅行特性・周遊構造・消費構造に違いがみられる宮古圏域との比較は、政策課題の把握に有益と考えられる。
本整理は八重山圏域の比較結果を石垣市の政策検討に参考化したものであり、石垣市単独データではない。

比較条件の近さ

同じ沖縄県内の離島圏域で、航空依存や観光産業比重など基礎条件が比較的近く、石垣市の政策検討に用いる比較対象として整理しやすい。

項目横断で見やすい

来訪者属性、同行者、宿泊、活動、交通、消費単価など19項目を横並びで確認でき、課題の所在を行政説明資料として示しやすい。

構造差が論点を明確化

八重山は石垣を拠点とする周遊性、宮古は圏域内完結性が相対的に強く、滞在延伸や周遊促進、交通結節改善の論点が把握しやすい。

施策活用可能性が高い

県外客・県内容を含む消費や滞在構造の差から、ターゲット別マーケティング、商品造成、回遊促進策の方向性に示唆が得やすい。

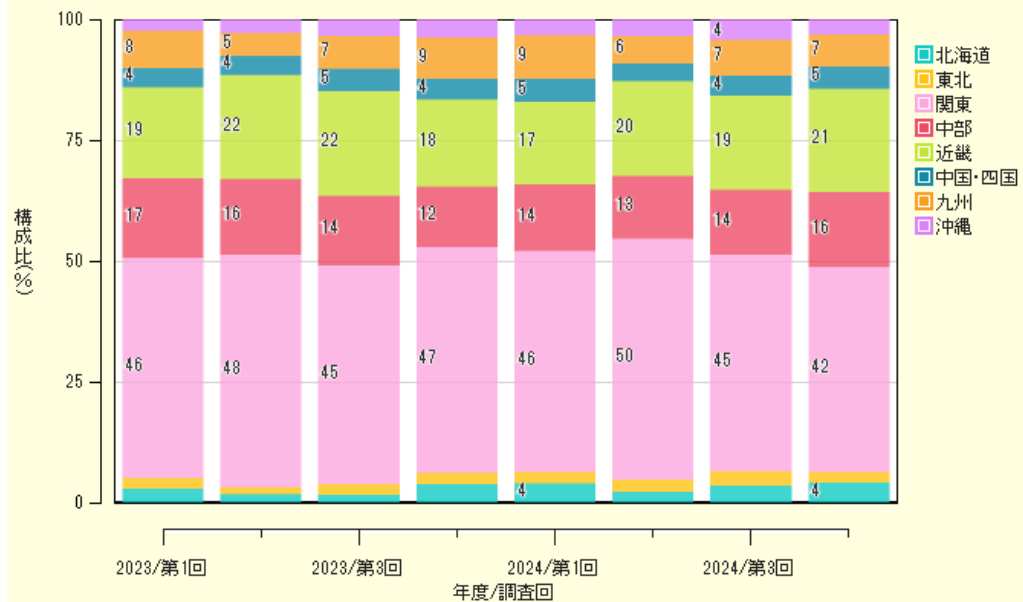
政策的含意

- ① 石垣市では「玄関口・滞在拠点・周遊起点」機能の強化を前提に施策を整理する。
- ② 宮古比較を通じて、滞在延伸、周遊促進、消費拡大、交通結節改善の優先論点を整理する。
- ③ 類似性と差異の双方を踏まえ、ターゲット別マーケティングや商品造成の方向性把握に活用する。

居住地の比較

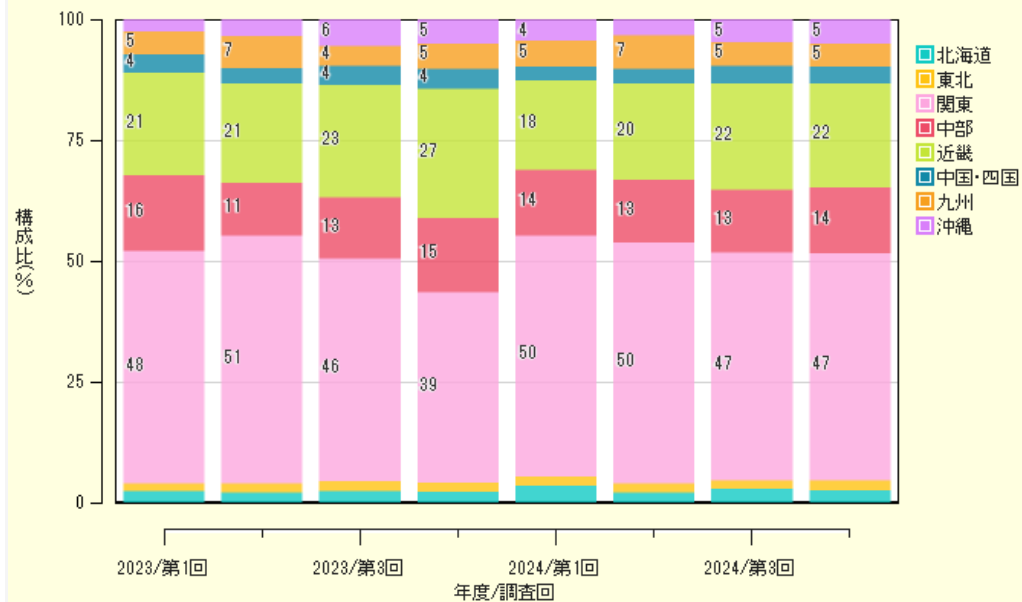
八重山圏域

1_居住地



宮古圏域

1_居住地



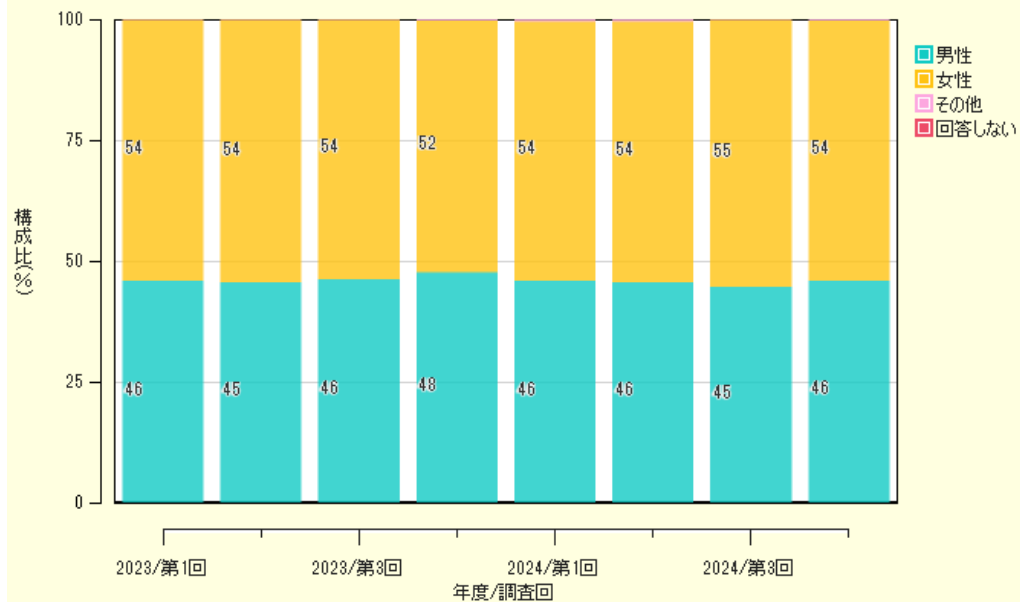
■ 比較コメント

県内客（沖縄）が最大で、次いで近畿・関東。宮古は関東比率がやや高く、八重山は県内客比率がやや高い傾向。

性別の比較

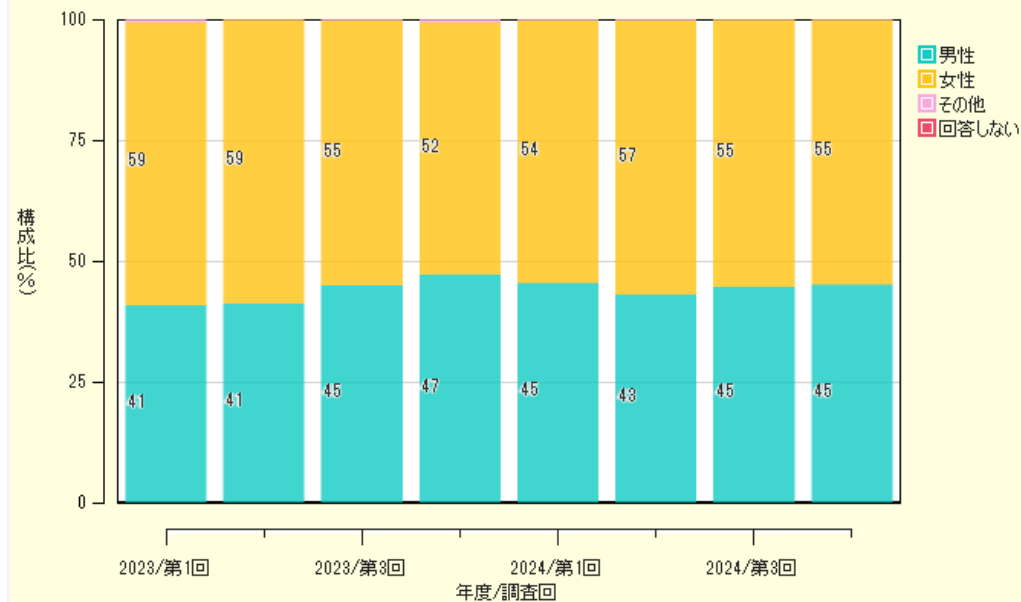
八重山圏域

2_性別



宮古圏域

2_性別



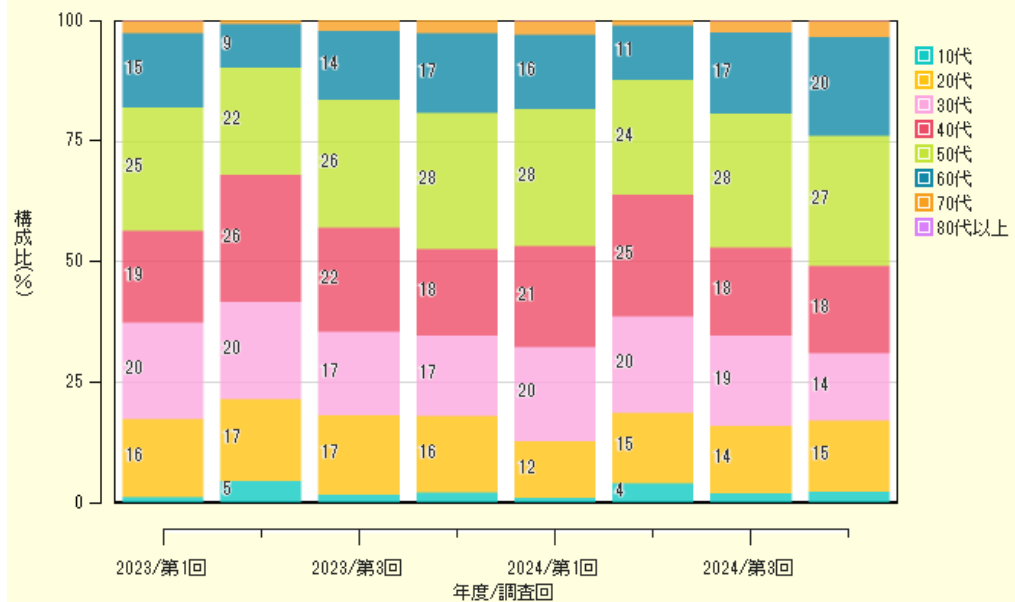
■ 比較コメント

両圏域とも女性が過半。宮古は女性比率が八重山よりわずかに高く、男性比率はその分低い。

年代の比較

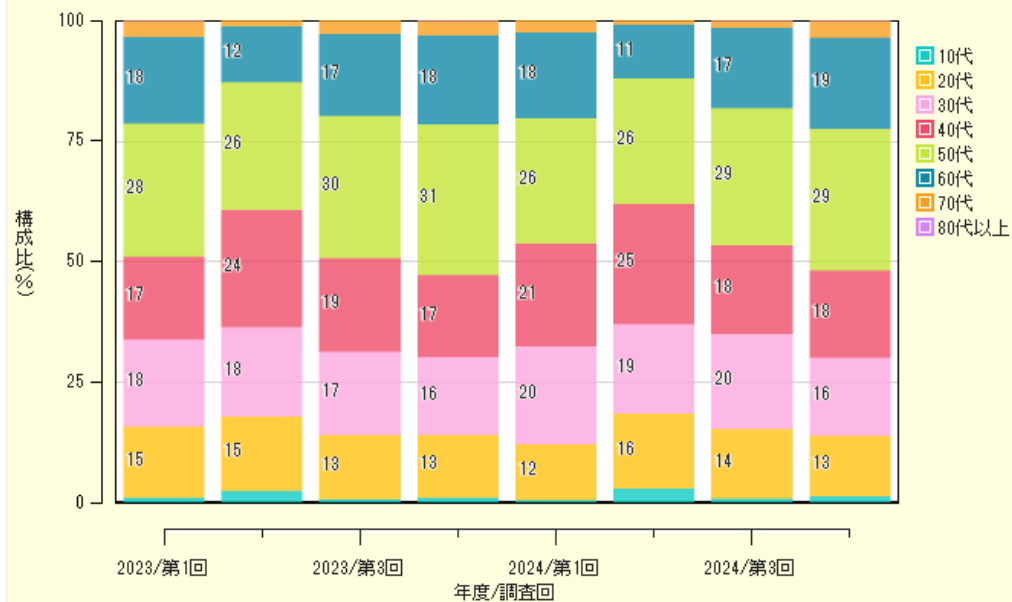
八重山圏域

3_年代



宮古圏域

3_年代



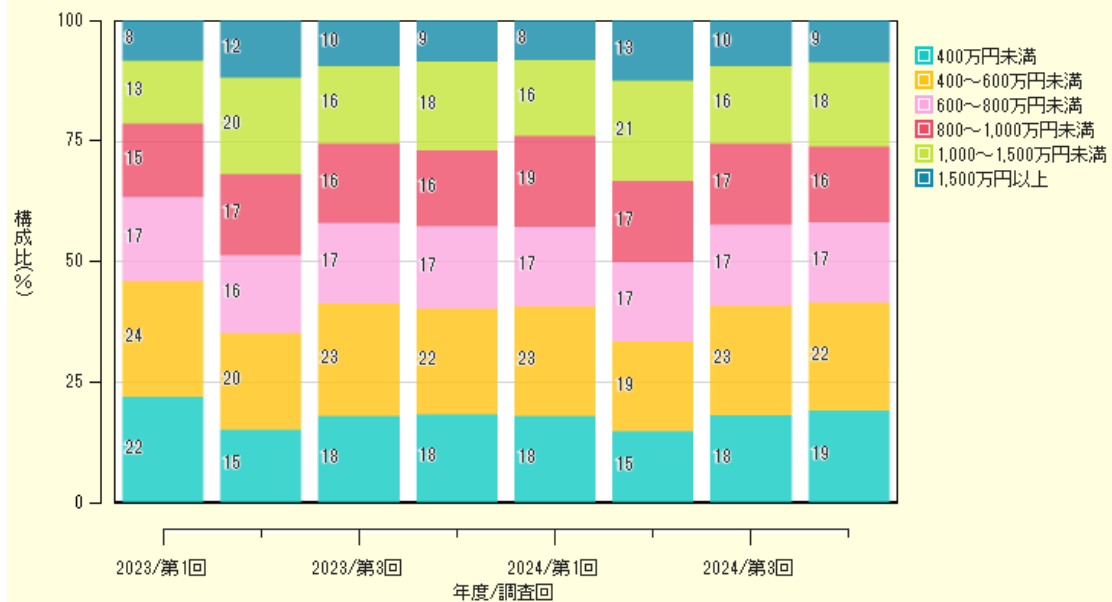
■ 比較コメント

30～50代がボリューム層。宮古は30代がやや厚く、八重山は50代・60代がやや厚い傾向が見られる。

世帯年収の比較

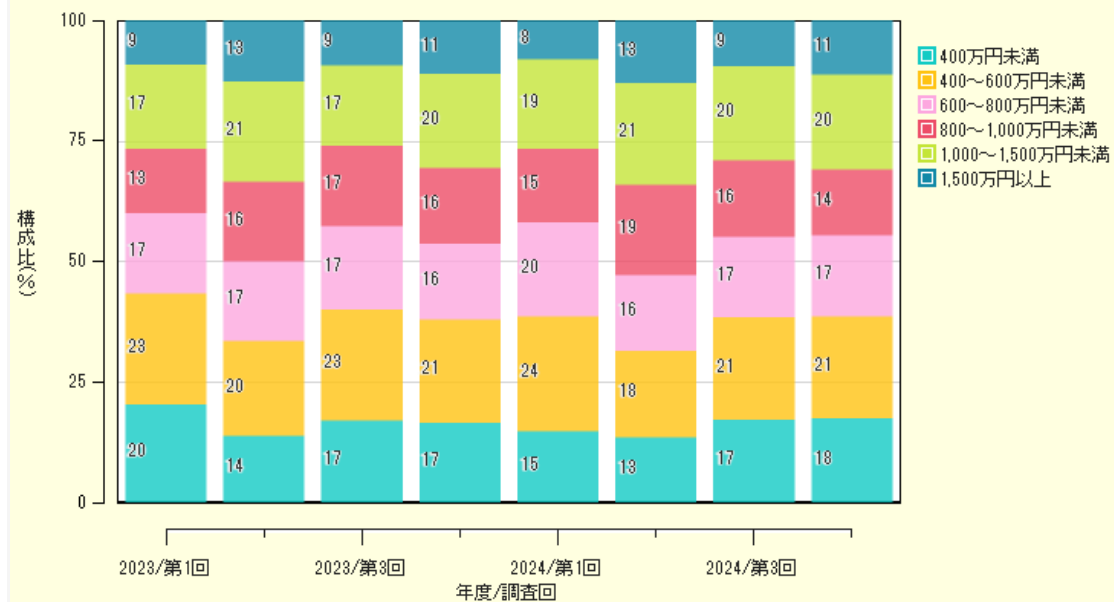
八重山圏域

4_世帯年収



宮古圏域

4_世帯年収



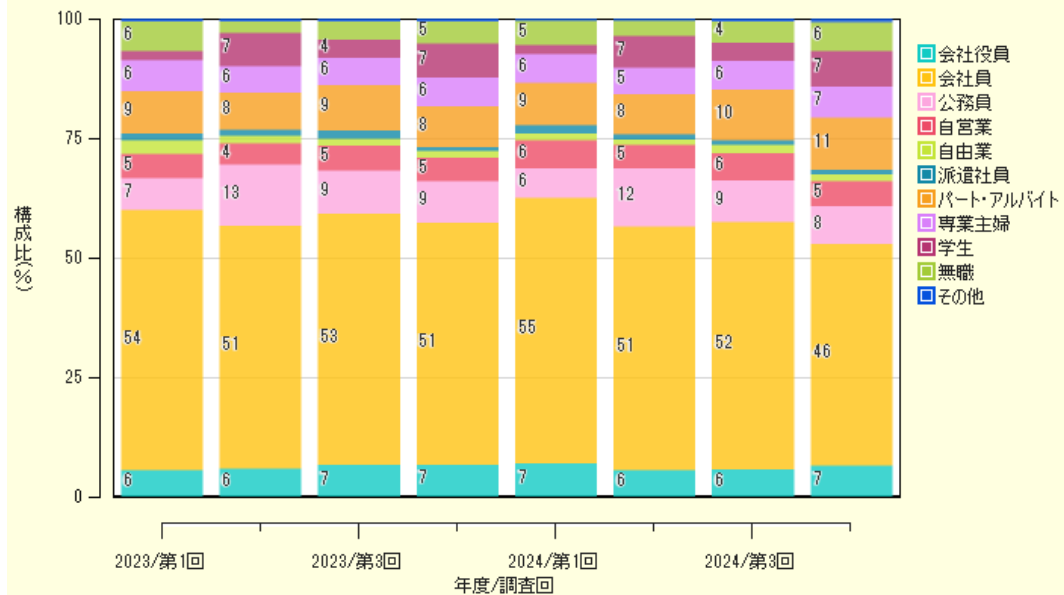
■ 比較コメント

400～800万円層が中心。八重山は600～800万円の比率がやや高く、宮古は400～600万円の比率がやや高い。1,000万円以上は両圏域とも1割前後。

職業の比較

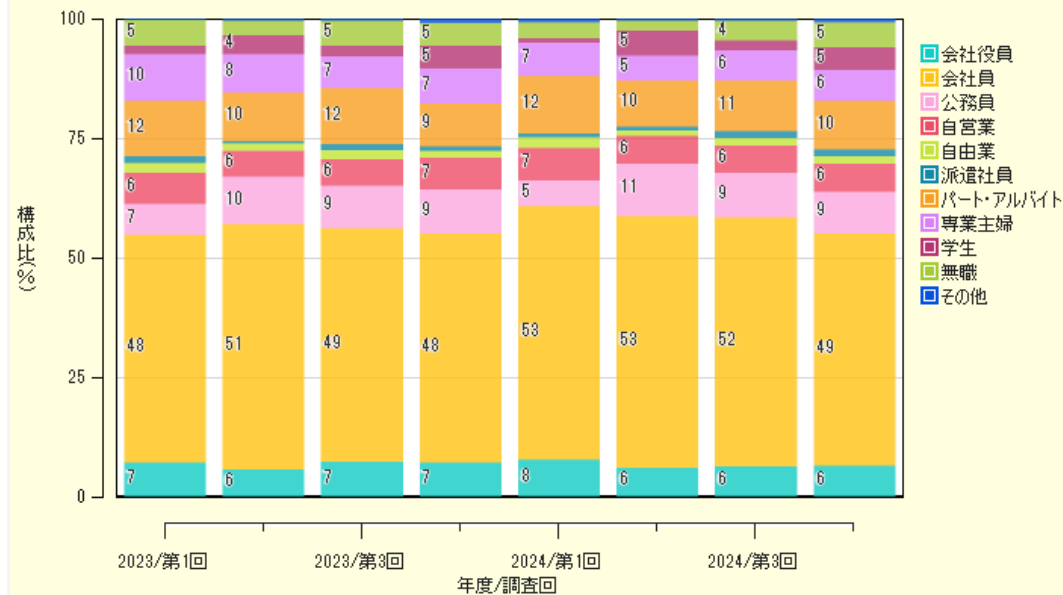
八重山圏域

1_職業



宮古圏域

1_職業



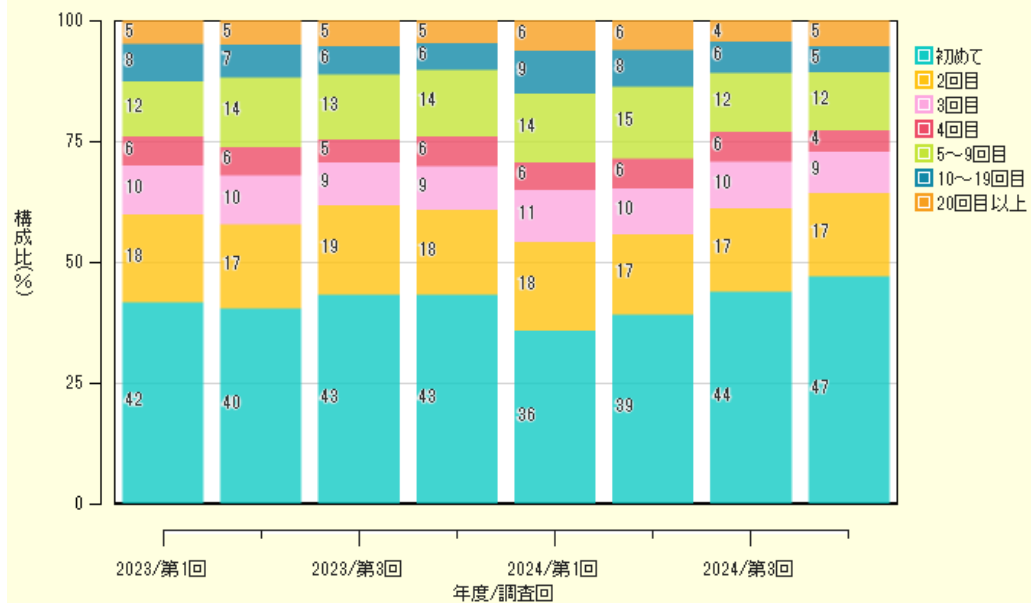
■ 比較コメント

会社員が約半数で最多。次いで公務員・自営業・パートアルバイトが続く。細かな構成差は小さい。

圏域への来訪回数の比較

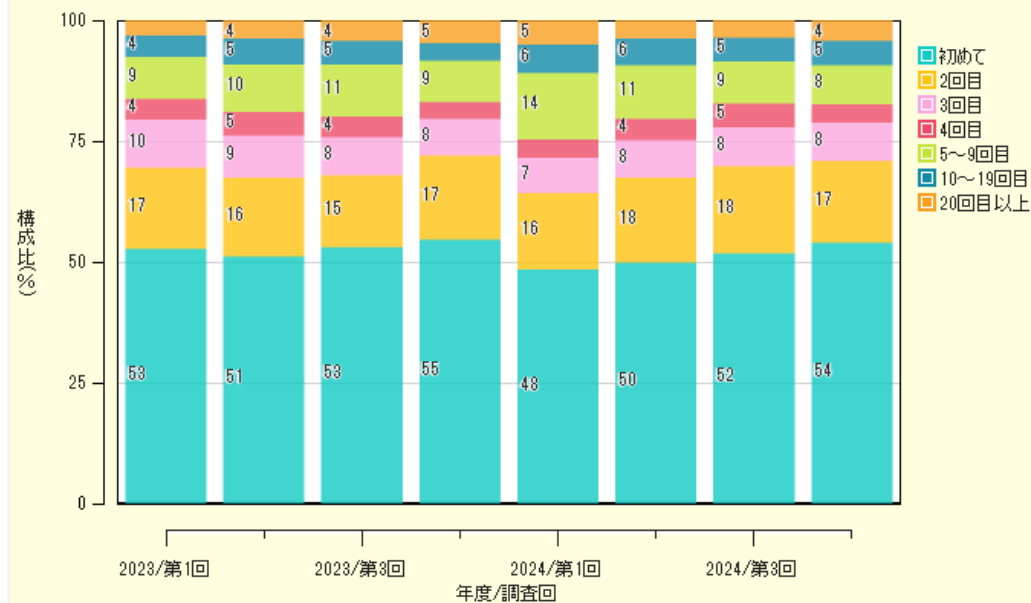
八重山圏域

1_圏域への来訪回数



宮古圏域

1_圏域への来訪回数



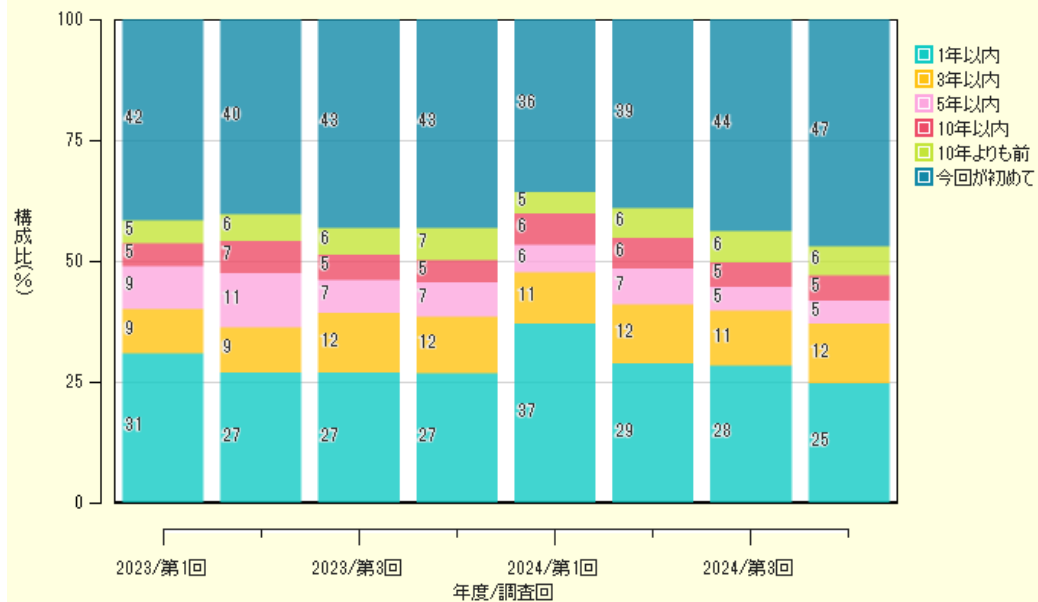
■ 比較コメント

宮古は「初めて」の比率がやや高い。八重山は2回目以降のリピーター構成が相対的に高い。

圏域への前回来訪時期の比較

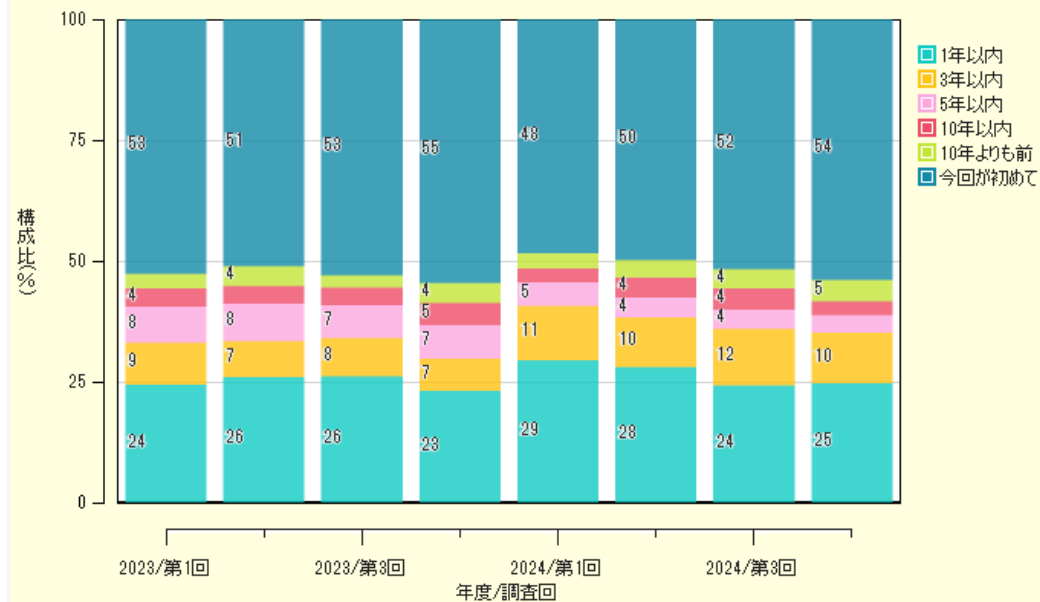
八重山圏域

2_圏域への前回来訪時期



宮古圏域

2_圏域への前回来訪時期



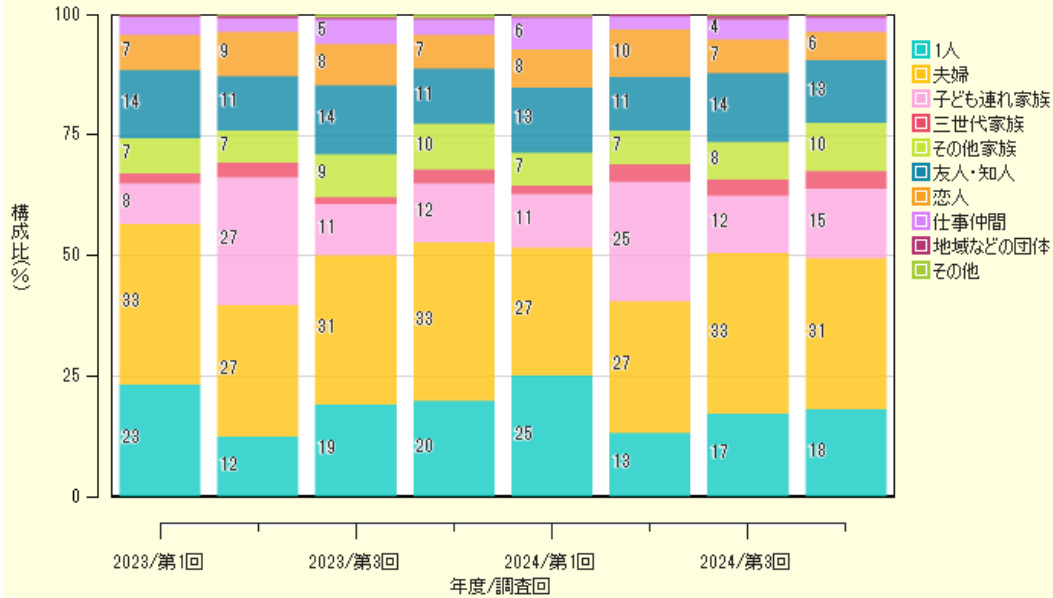
■ 比較コメント

宮古は「今回が初めて」の構成が高め。八重山は「1年以内」「3年以内」の再訪者比率がやや高い。

同行者の比較

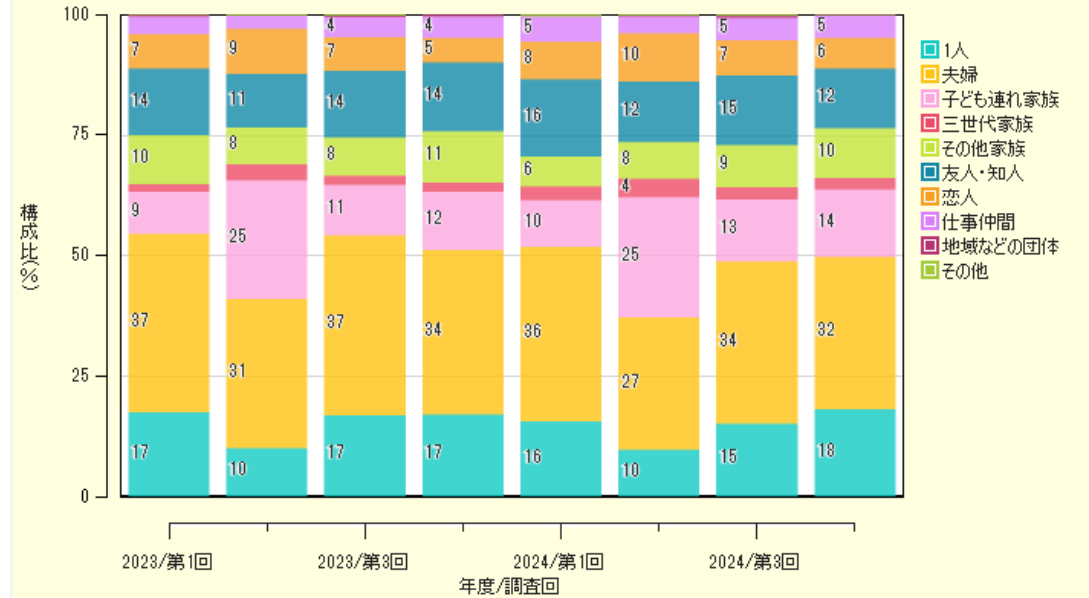
八重山圏域

3_同行者



宮古圏域

3_同行者



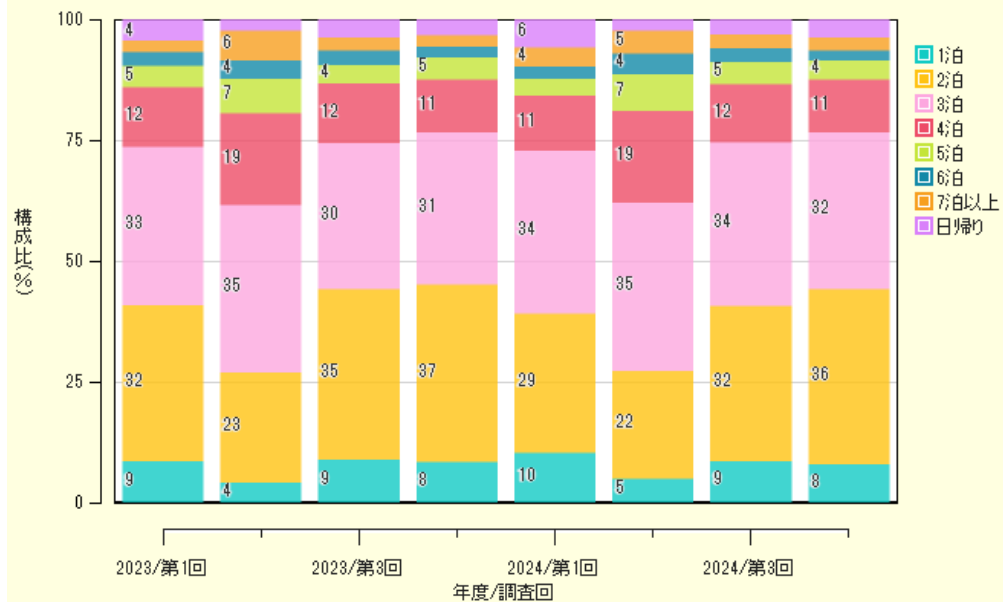
■ 比較コメント

夫婦・カップルが最多。宮古は子ども連れ家族の比率がやや高く、八重山は友人・知人同行がやや高い。

圏域での泊数の比較

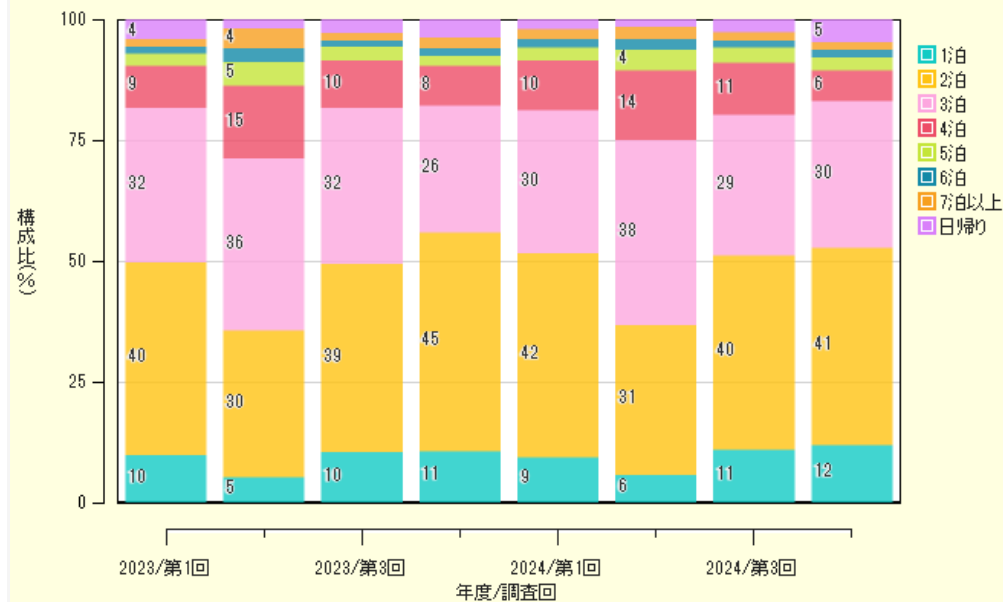
八重山圏域

1_圏域での泊数



宮古圏域

1_圏域での泊数



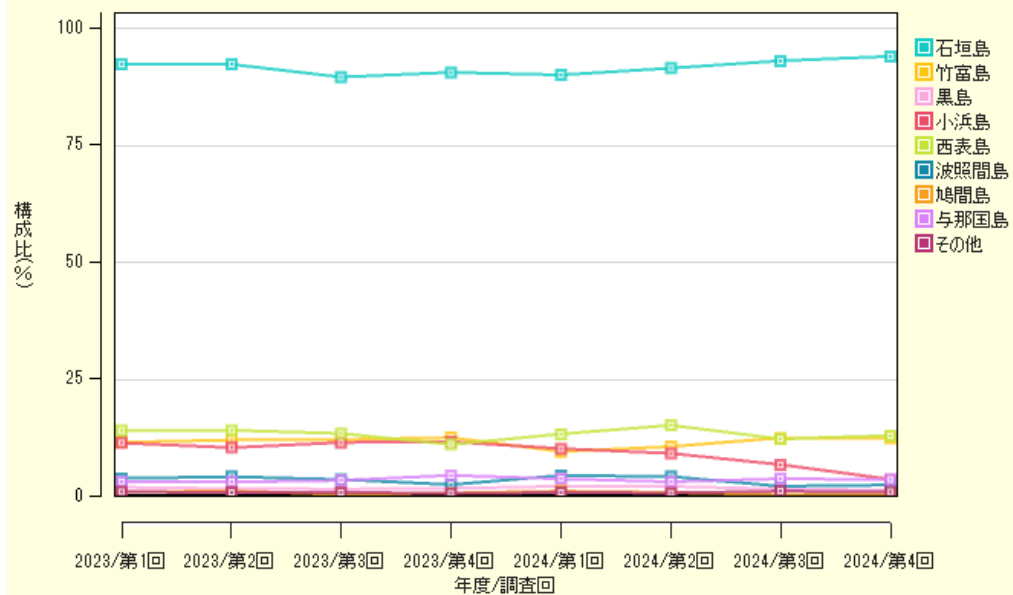
■ 比較コメント

2泊が中心。八重山は3泊の比率が相対的に高く、宮古は2泊集中が強い。

宿泊した場所の比較

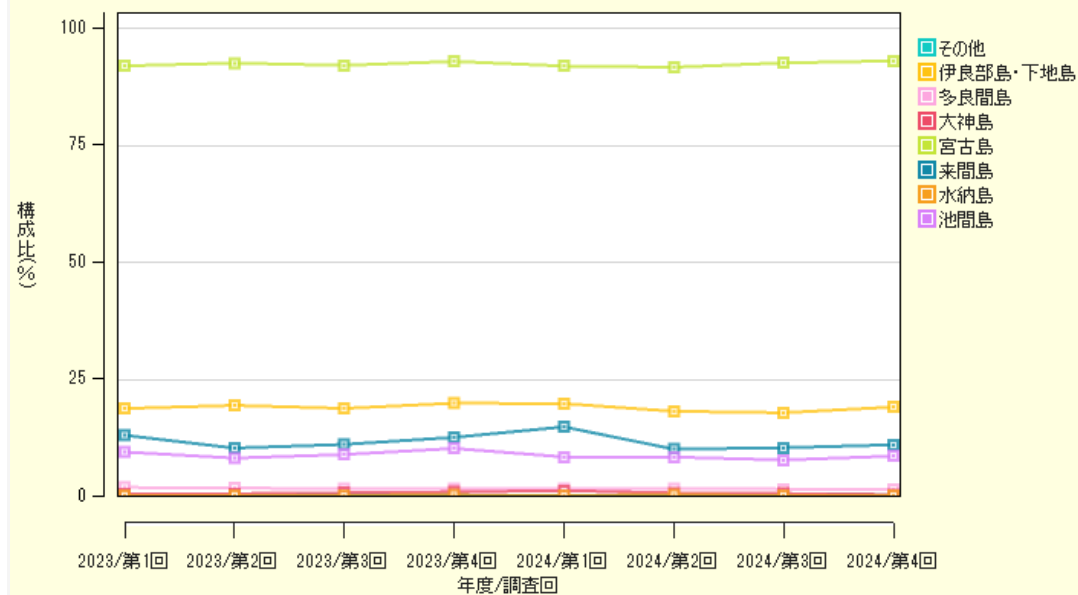
八重山圏域

2_宿泊した場所



宮古圏域

2_宿泊した場所



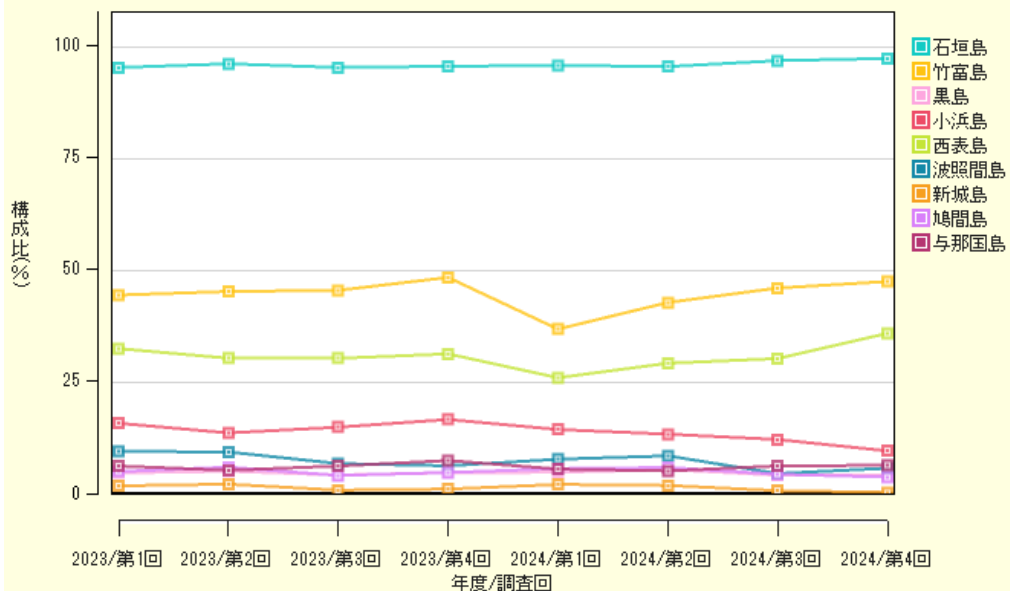
■ 比較コメント

両圏域とも拠点島への宿泊集中が9割前後。周辺離島では八重山は竹富・西表、宮古は伊良部・下地島への宿泊が中心。

来訪した場所の比較

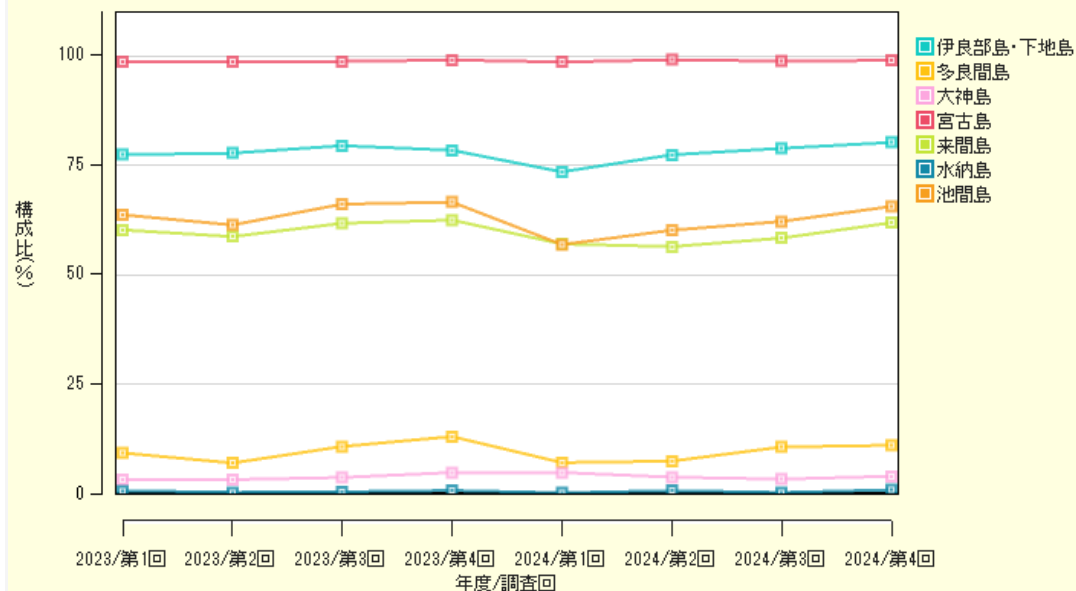
八重山圏域

4_来訪した場所



宮古圏域

4_来訪した場所



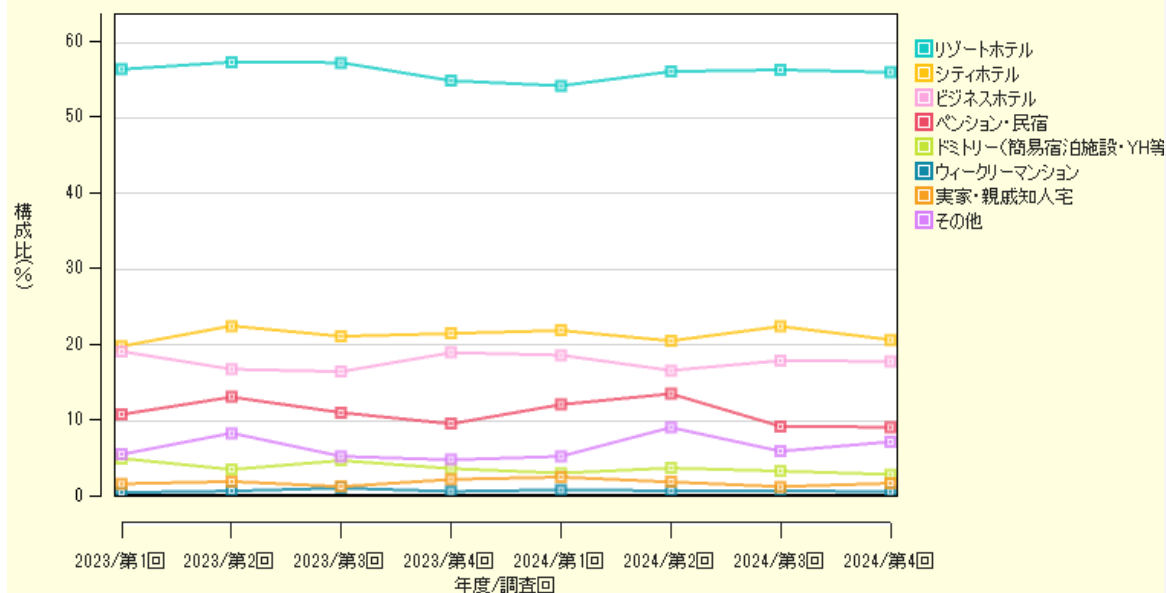
■ 比較コメント

訪問は拠点島が最も多い。八重山は竹富・西表などの回遊が目立ち、宮古は伊良部・下地島や来間島への回遊が中心。

宿泊施設の比較

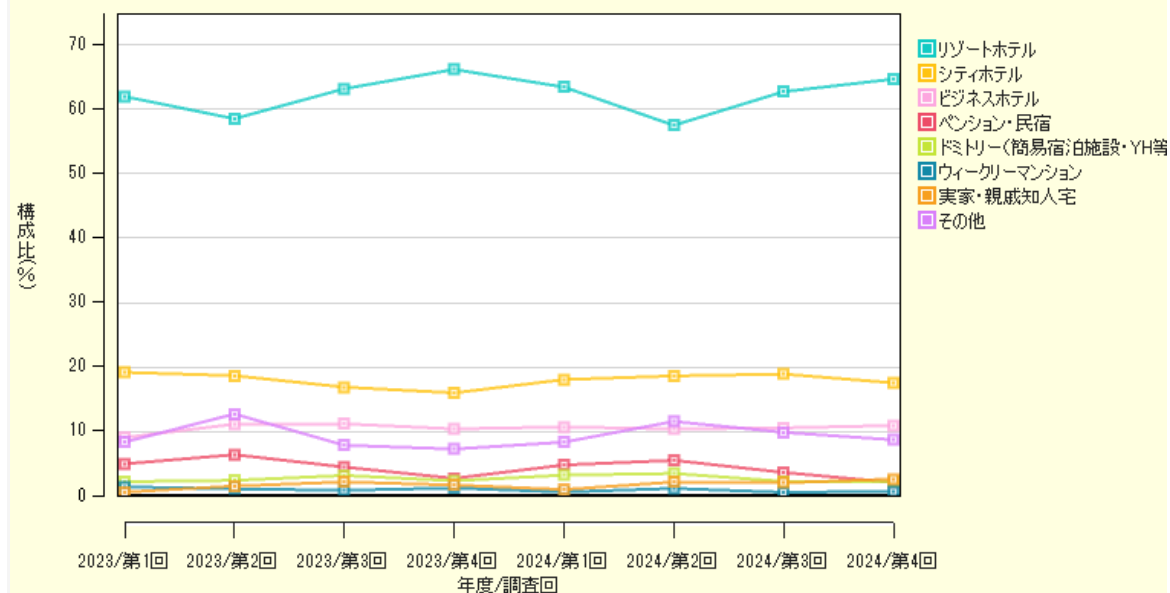
八重山圏域

3_宿泊施設



宮古圏域

3_宿泊施設



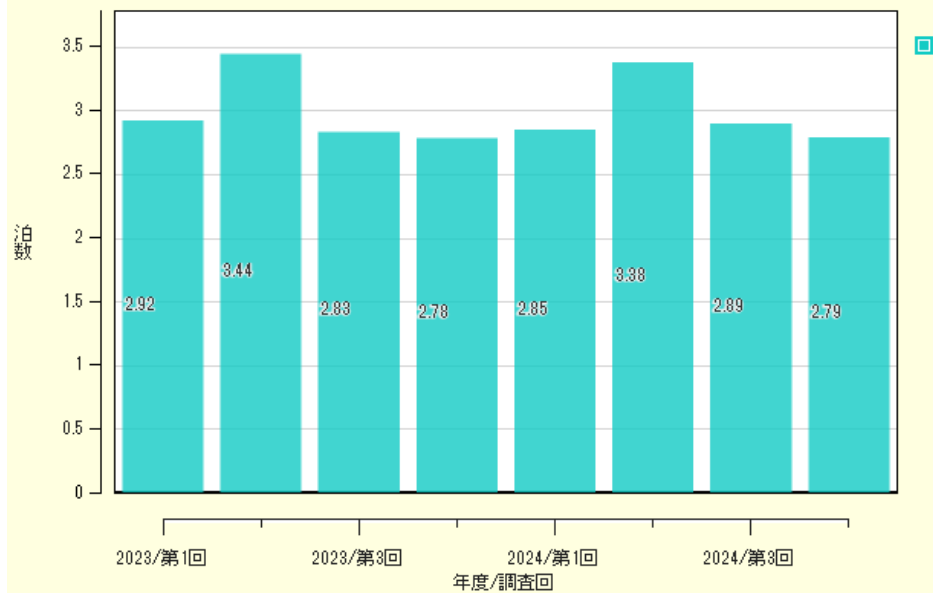
■ 比較コメント

リゾートホテルが最大。八重山はシティ / ビジネスや民宿の構成がやや高く、宮古はリゾート偏重がより強い。

平均泊数の比較

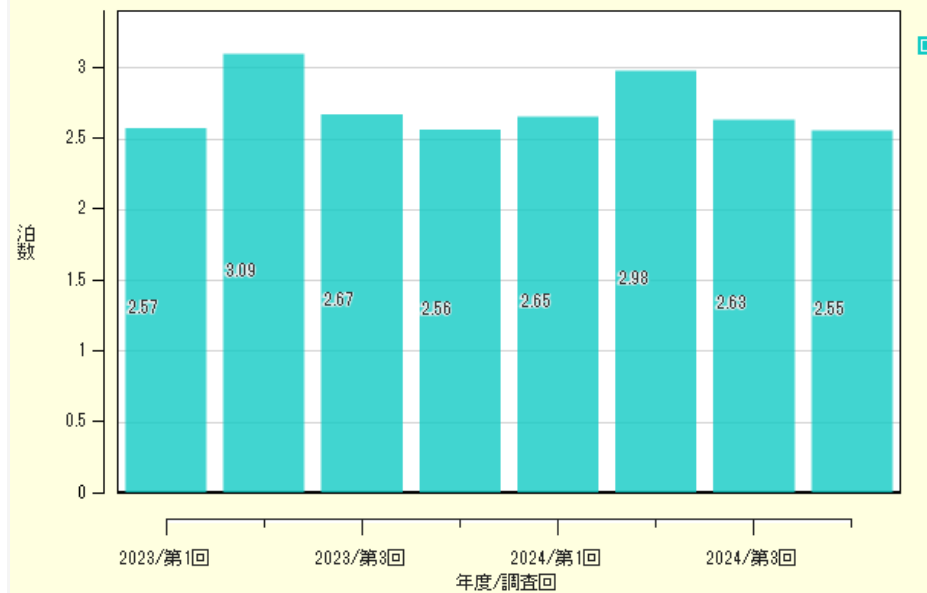
八重山圏域

4_平均泊数



宮古圏域

4_平均泊数



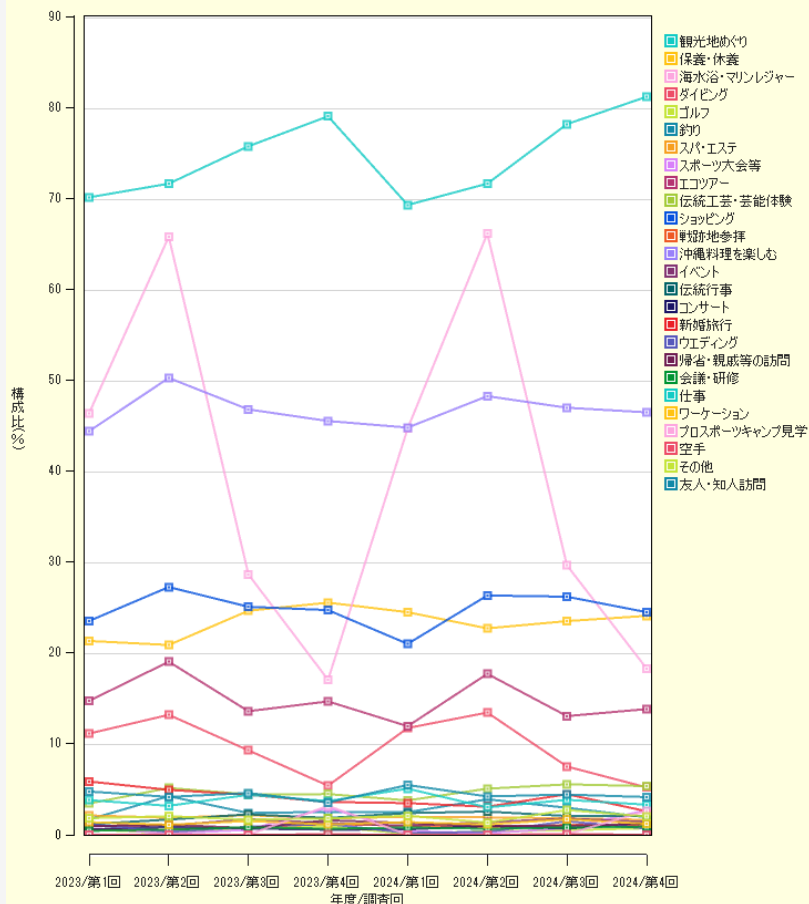
■ 比較コメント

八重山の平均泊数は概ね宮古より長い。長期滞在ニーズがやや強い傾向がみられる。

活動の比較

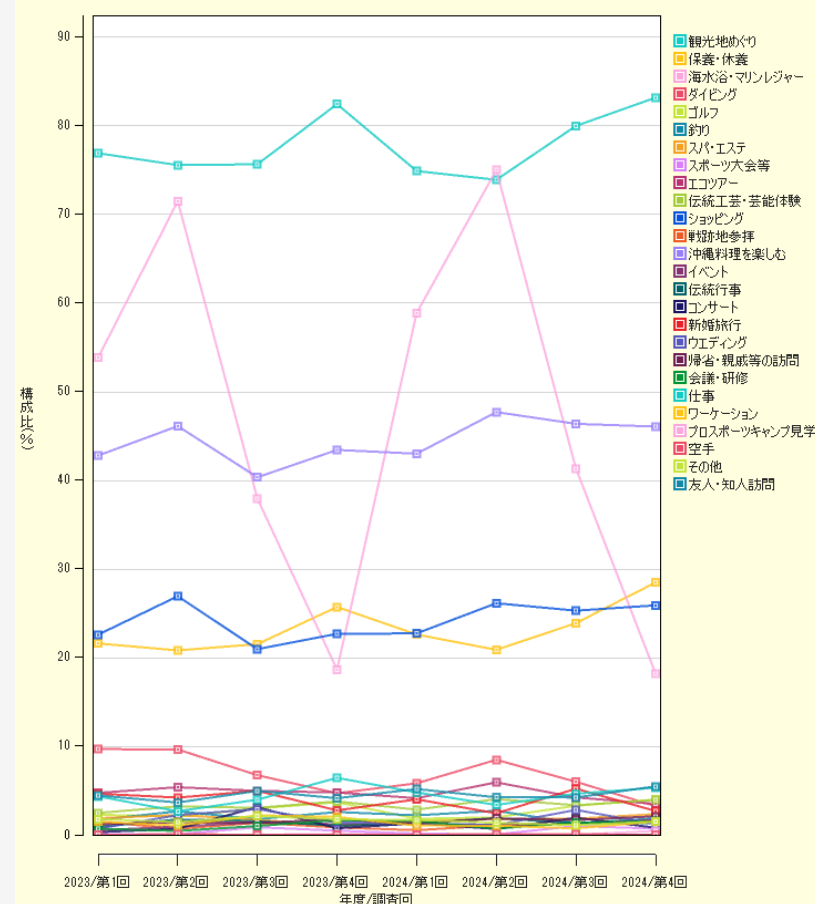
八重山圏域

1活動



宮古圏域

1活動



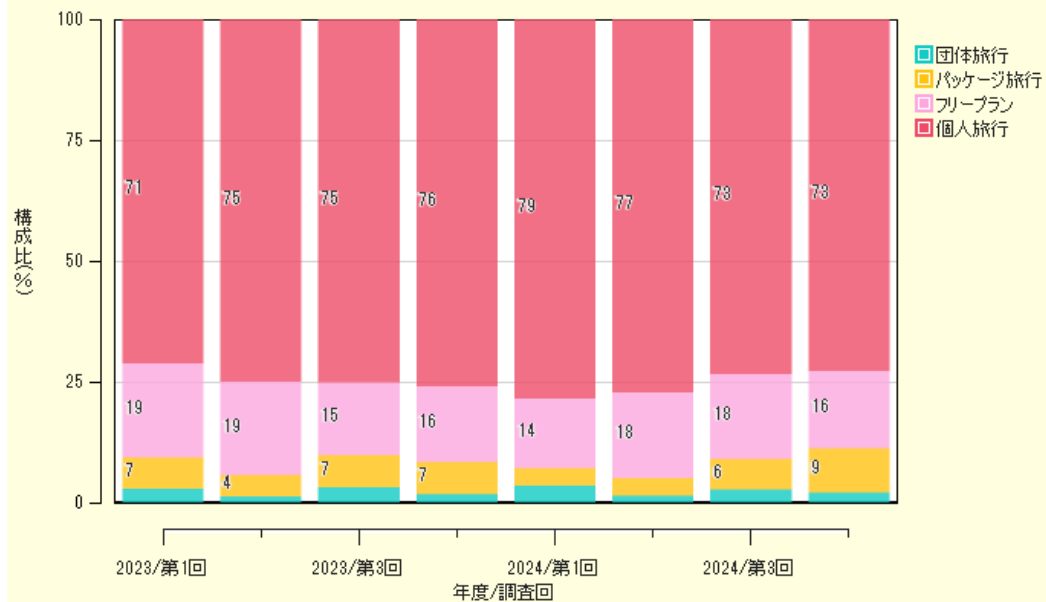
■ 比較コメント

両圏域とも「観光地めぐり」「海水浴・マリン」が上位。八重山は自然観察・離島めぐり、宮古はビーチ滞在・ドライブが相対的に強い傾向。

旅行形態の比較

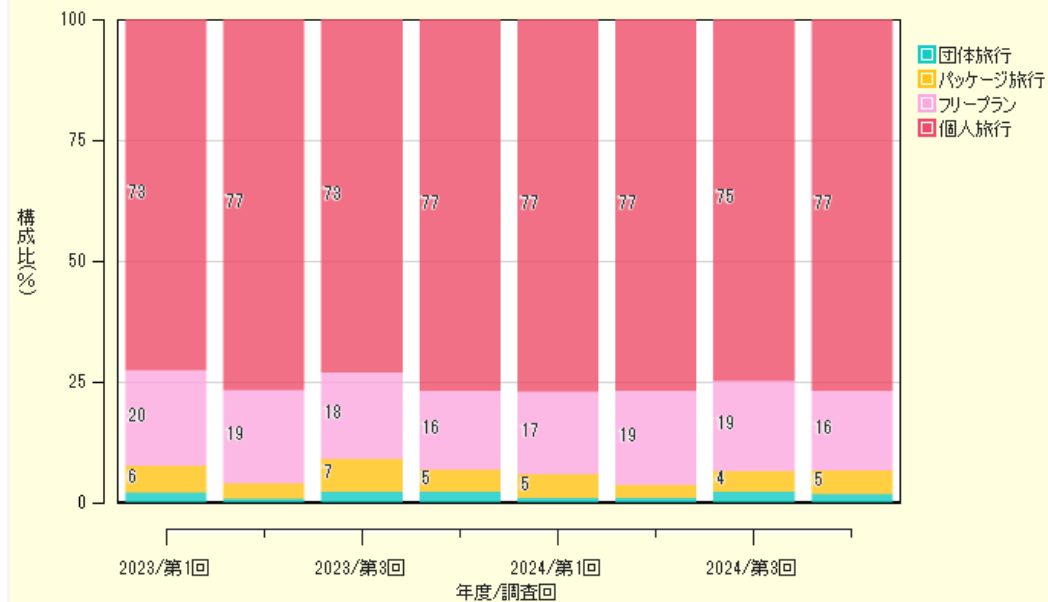
八重山圏域

2_旅行形態



宮古圏域

2_旅行形態



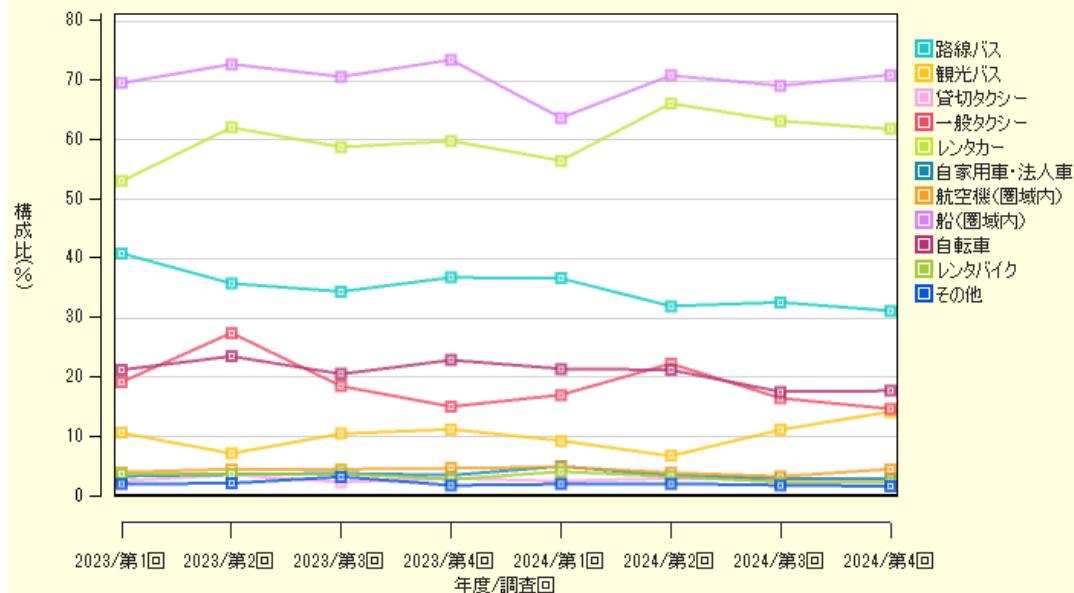
■ 比較コメント

個人旅行が主流。パッケージ・団体は限定的で、両圏域の差は比較的小さい。

交通機関の比較

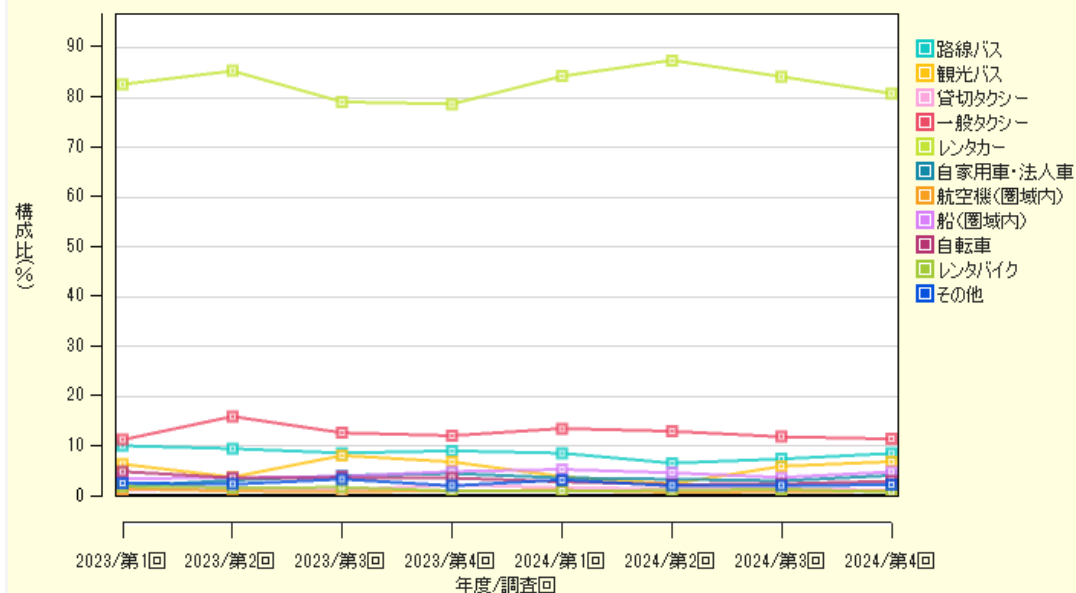
八重山圏域

3 交通機関



宮古圏域

3 交通機関



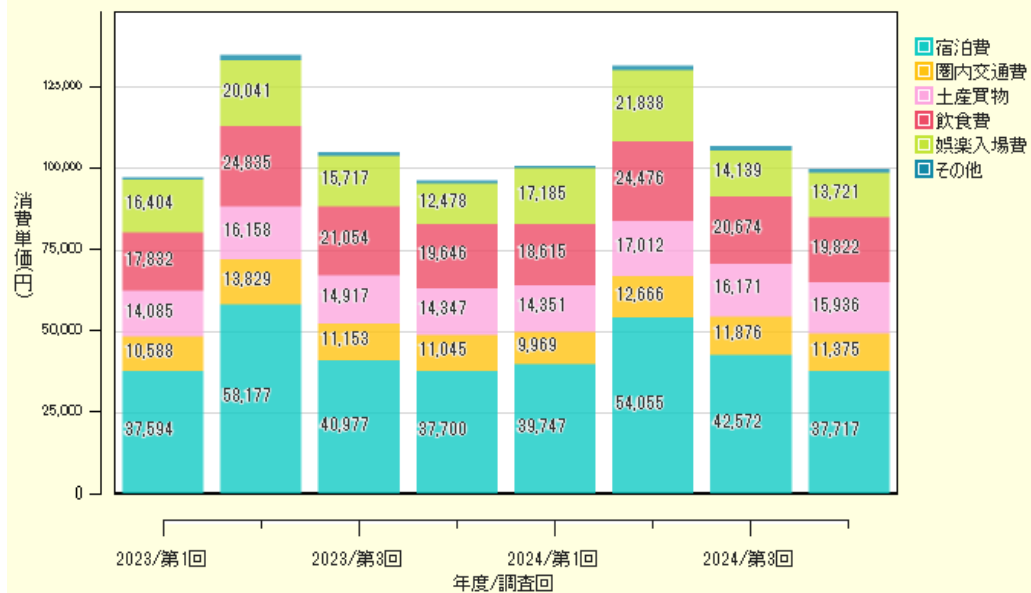
■ 比較コメント

レンタカー利用が最大。宮古はレンタカー依存度がより高く、八重山は路線バス・タクシー等の利用が相対的に残る。

消費単価の比較

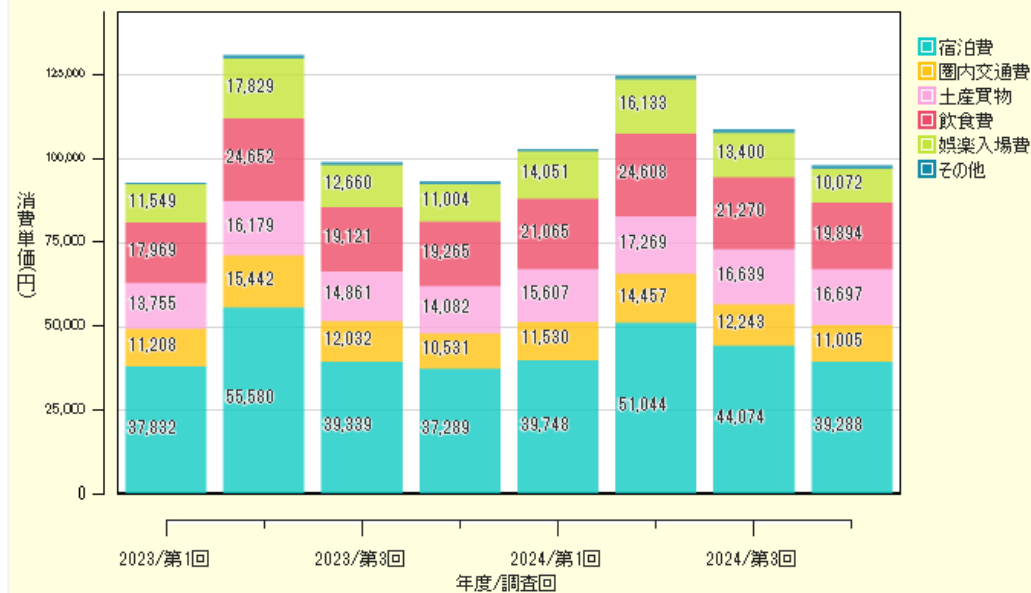
八重山圏域

1消費単価



宮古圏域

1消費単価



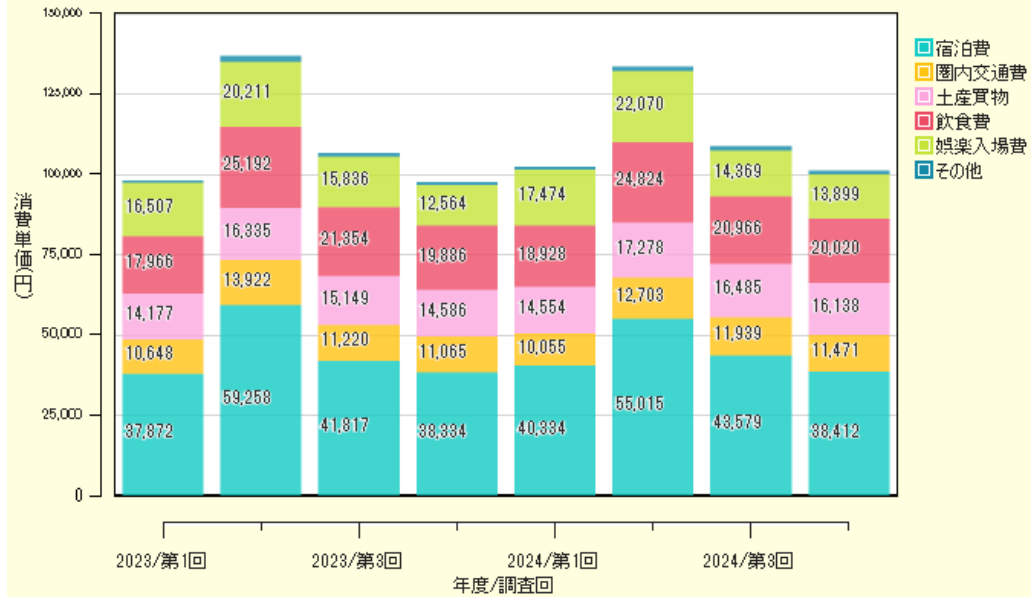
■ 比較コメント

総額水準は近接。費目別の内訳には一定の差がみられ、支出構成の特徴は図表のとおりである。

消費単価（県外客）の比較

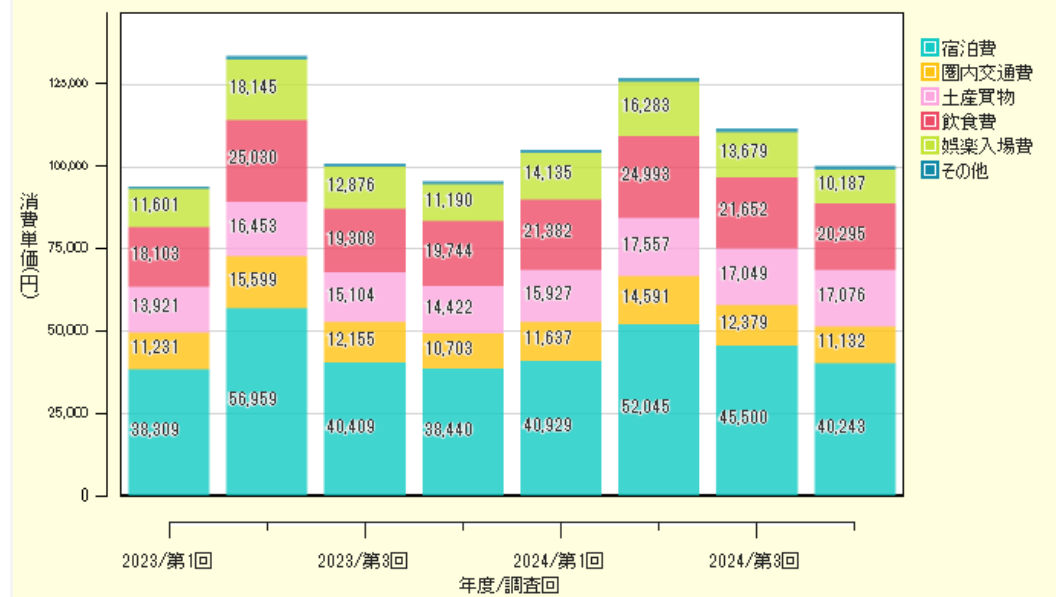
八重山圏域

2.消費単価(県外客)



宮古圏域

2.消費単価(県外客)



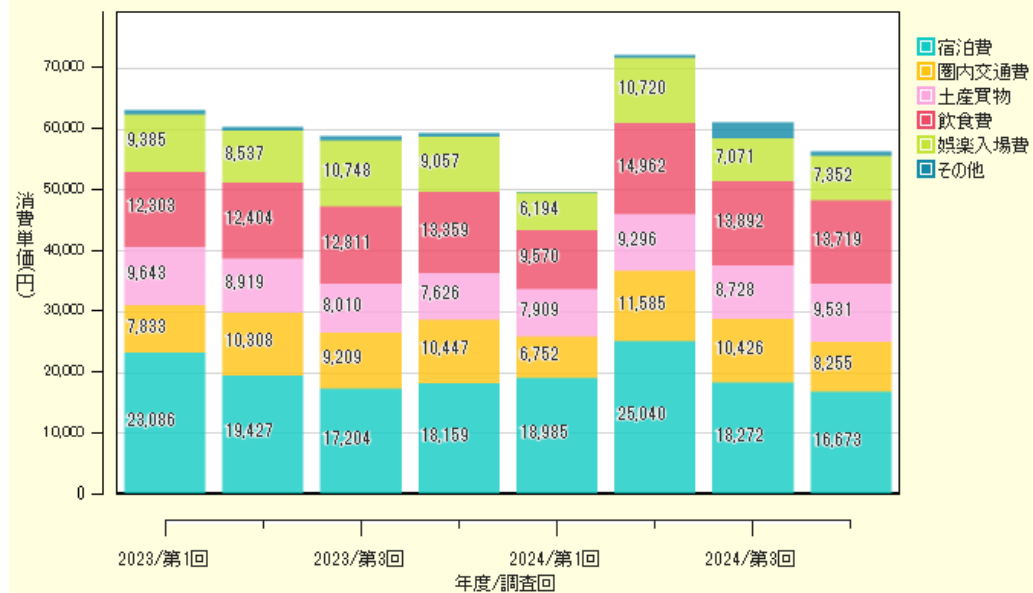
■ 比較コメント

県外客では総額水準は近接しており、費目別の構成に一定の差がみられる。相対的な強弱は図表のとおりである。

消費単価（県内客）の比較

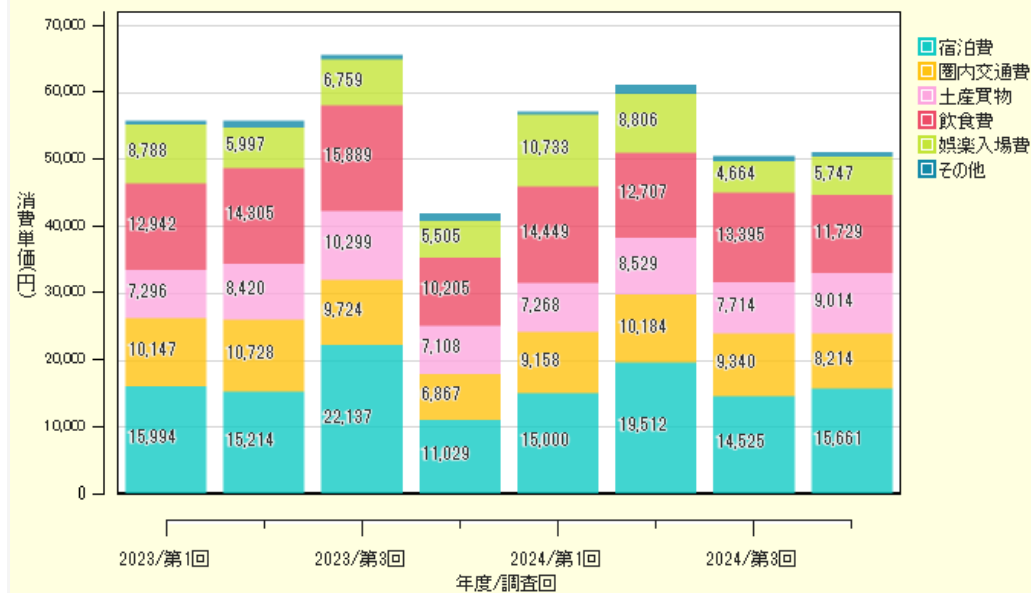
八重山圏域

3.消費単価(県内客)



宮古圏域

3.消費単価(県内客)



■ 比較コメント

県内客では総額規模は比較的抑えられ、両圏域の差も限定的とみられる。費目別の構成差は図表のとおりである。

八重山圏域は石垣島を拠点とする周遊・滞在構造を持つと考えられ、宮古圏域との比較からは、石垣市の政策検討において来訪者属性、周遊行動、移動手手段、消費構造に応じた施策設計が重要であることが示唆される。

なお、本整理は八重山圏域比較から石垣市の政策検討に参考となる視点を示すものであり、石垣市単体データではない。

来訪者属性・再訪構造

八重山圏域では県内客、50～60代、リピーター層が相対的に厚く、宮古圏域では関東発、30代、初回客の比率がやや高い傾向がみられる。石垣市では既存来訪者の再訪維持と新規層への訴求を分けて設計する視点が有効と考えられる。

滞在・周遊の特徴

八重山圏域では3泊寄りかつ竹富・西表などへの回遊がみられ、石垣島が玄関口・滞在拠点・周遊起点として機能している構造が示唆される。石垣市では滞在延伸と周遊接続を意識した施策の重点化が有効と考えられる。

活動・交通の特徴

八重山圏域では自然観察や離島めぐり、宮古圏域ではビーチ滞在やドライブの比重が相対的に高い。石垣市では港・空港・市街地を起点とした情報提供と二次交通の利便性向上が重要と考えられる。

消費構造

消費単価の総額差は限定的だが、県外客・県内客を含め費目構成には違いがみられる。石垣市ではターゲット別に滞在中消費を高める商品造成や周辺消費への波及策を組み合わせることが示唆される。

政策示唆

- ① 石垣島の玄関口・滞在拠点機能を前提に、離島周遊と市内滞在をつなぐ導線整備を進める。
- ② リピーター・新規客、県外客・県内客など属性差に応じた商品造成・情報発信を強化する。
- ③ 港・空港・宿泊地・観光拠点を結ぶ交通・案内機能を高め、回遊性と消費機会の拡大を図る。